

ISO14001 内部監査報告総括

2005年 月 日
株式会社エコヒルズ

1. 経営全般について

1.1 重大な不適合：ルールが守れない。

副社長の思いとしては、CSR等非常に崇高な会社を目指されているが、現場の実態と大きく隔たりがある。受注が拡大し、生産が追いつかない状況もあり、ISO14001はほとんど運用されていない。ISO9001やQS9000も認証取得されているが、不良がたくさん出ている事実があり、はたしてきちんと運用されているのか甚だ疑問である。システムの運用どころか、着帽というルールさえ守られていない。

1.2 原因及び改善策

不良削減の手段として6Sを全社的な活動として取り組まれており改善のきざしがあるが、そもそも上場以降、ISOなどの様々なルールができており、ルールが多すぎて、まじめに順守しようと思っている従業員でさえ順守することができない状況にある。経営方針、経営理念手帳、ISO、QS、就業規則等の諸規定のルールの6S(整理、整頓)から着手すべきである。

2. ISO14001について

2.1 総括

末期ガンであり、脳死状態に近い。これまで、毎年の審査という生命維持装置をつけたまま生かされていた。今回、外科手術を行うが、手術後も経営に寄与するようになるまでには継続してリハビリが必要だと思われる。

2.2 重大な不適合

1. ISO14001というシステムはあるが、機能的に運用されていない。
2. 無駄な文書・記録作成が多い。(毎年、審査のために1ヶ月もかけて記録を作成している。)
3. 法律順守の仕組みの欠陥

適用される環境法は特定されているが、具体的に何を順守しなければならないのかが特定されていないので、順法は全く保証することができない。(道路交通法でいえば、スピードを出しすぎたはいけないことまでは分かっているが、何キロ以上が順守すべき法定速度なのかが分からない状態)「三菱ふそう」のような不祥事がいつ起きてもおかしくない状態である。派遣社員等の末端までの徹底以前の問題になっている。

今回の監査による不適合に関しては、ISO14001:2004移行により抜本的な是正を行うので、是正処置記録の作成は不要である。